

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100043		
法人名	株式会社さくらメディカル		
事業所名(ユニット名)	グループホーム潮風ひだか (しらなみ)		
所在地	和歌山県日高郡日高町小池23		
自己評価作成日	令和2年1月30日	評価結果市町村受理日	令和2年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyouvoCd=3092100043-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JiyouvoCd=3092100043-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和2年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の風景が望める穏やかな環境の中で、個々に応じた生活が送れるよう日々努めています。会社の意向もあり看護職員を兼務で3名配置し、入居者の健康管理、医療機関との連携、看取り介護の実施等に力を入れています。近年は家族様が自然な形で看取りを希望されることが多く、介護と看護が協働し柔軟に対応できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初の理念を大切にして、入居者の医療面を重点的に考えて看護師を配置し、健康管理に力をいれ、入居者のかかりつけ医も往診に来てもらうよう連携を図っている。同法人の隣にあるグループホームと合同での花火の実施やボランティア来所による大正琴の拝聴、近隣の保育園との交流など、地域とのつながりを大切にしている。入居者の家族から生活史を聞き、本人の思いに寄り添う努力を続けながら、ADLの低下が見られる時などはリハビリを実施するようにしている。個人の意思の尊重を重んじ、できるだけ自由に振舞えるよう環境を整え、一人ひとりが笑顔で過ごしていただくよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基に「今日も明日も笑い合おう。なじみのくらしをいつまでも。」というユニット理念を掲げています。職員が共通の意識でより良いケアに取り組めるよう、ユニット内に掲示しています。	開設時の理念を大切に、自分らしく個性を重んじて生活して貰う様にしている。入居者の問題を事前に取りまとめ、ここで生活して行くのはどうしたら良いか職員会議にて協議している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園と年に2回交流の機会を持っています。また、地域サークルの方や家族様の所属するサークルの方々に訪問していただき交流を図っています。	大正琴、民謡、銭太鼓などのボランティアが来所してくれたり、保育園との交流では互いが行き来したり、買い物に行った際は、店の人と会話を楽しむなど、地域との交流が積極的に図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を職員全員が受講し、家族様からの相談等に対して専門的な知識で対応ができるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回実施しており家族様や近隣住民の方にサービス内容を知っていただくとともに、雑談を交えながら意見や要望を聞き、サービスに反映できるよう努めています。	同法人の隣のグループホームと合同で運営推進会議を行っている。3市町村の担当者が参加しているが、家族の参加が少なく地域の人一人しか参加していない。	地域の人、家族、本人の参加が増えることでサービスの質の向上につながり、地域交流が活発になる事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より不明な点等を市町村担当者に相談しています。また、市町村からの要望や相談にも応じ、協力関係を築いています。	運営推進会議にも参加しており、研修会の案内を貰ったり、新規の入居の相談、運営についての相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修計画に組み込み、年2回身体拘束廃止に向けた研修を行い理解を深めています。日頃のケアの中で行動を抑制するような声掛けがないかなどを話し合い意識を高めています。	年2回の内部研修を行い、スピーチロックについては話し合っただけで日常の中で注意し合っている。昼間は施錠せず、出て行く入居者には職員が付いて行き、薬の拘束についても医師、薬剤師と話し合っただけで眠剤を減らしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても年に2回研修を行い、虐待に近い行為がないか、また見過ごすことのないように日頃のケアの中で状態観察をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の方の権利擁護、成年後見制度等に関して、研修計画に組み込んでいます。また、成年後見制度の必要性が出てきた場合、市町村担当者と協力し支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、一連の必要書類を説明していく中随時不明な点がないか確認し、ご本人、家族様の理解、納得できるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションを図り、来訪時や電話連絡以外でもEメールで連絡を取り家族様の意見が聞けるよう努めています。頂いた意見、要望は共有、検討しサービスまたは運営に反映できるよう努めています。	面会に来る家族は多く、来た時に話をしている。家族の意見で、夏に壁からの熱を避ける為に、壁とベッドの隙間を開けたり、面会簿の一覧記入の形式から個別記入の形式に変えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務や運営に関する提案書や質問書を活用したり、毎月行っているユニット会議にて意見、提案を聞き、反映できるよう努めています。	1年前から、提案書・質問書用紙を作り、職員に書いて貰い要望に答えている。草刈り機など買って欲しい物はその都度買っている。休みは、希望に沿って取って貰い、休憩時には空き部屋を活用して休息している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭環境や本人の希望があればパートから常勤、常勤からパートへの変更を行ったり、シフト調整をし働きやすい就業環境になるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得支援の一環で研修費用を負担したり、回覧している社外研修を希望する場合は勤務調整をしたりし知識、技術の向上に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームや居宅介護支援事業所等の関係者と相談しているが、互いに行き来する機会は減ってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までに面談を行い、ご本人の現状を把握し、ご本人や家族様の困っていることや求めていることを見出し、サービスに組み込むことで不安を最小限にできるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居に至るまでに不安なことや不明な点、要望などを聞き、関係を築いていけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際しご本人や家族様が今何を必要としているかを見極め、他サービスの必要性、要望があれば対応します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の気持ちや希望を大切にし、日々のケアを通じて多くのことを学ばせていただき、互いに支えあう気持ちで接するよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や敬老会に家族様を招待し一緒に祝いしたり、普段の生活の中で家族様の協力を得ながらご本人を支えていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の近隣の方や友人等が気軽に面会に来ていただけるよう努めています。また入居前になじみの深かった場所や思い出のある場所に出かけたり、新聞記事やパンフレットを見ながら思い出話を聞かせていただいたりしています。	若年の入居者は家族との時間を大切にしてもらって、外出時に家族にも一緒に来てもらったり、外泊をふやしたり、家族だけのすき焼きも計画中である。また、友人が面会に来たり、習字、生け花を楽しむ入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が会話やかかわりを持ちやすいよう、必要に応じて職員が仲介し同じ空間、同じ時間を共有できるよう努めています。また、他ユニットの利用者とも交流できるよう行事等を計画しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご本人や家族様の近況を訪ねたり、必要に応じて相談等も受けています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で入居者様の希望や要望をくみ取れるよう、入居者様の言葉を記録し職員間で共有し意向に沿えるよう努めています。	職員皆でカンファレンス時に入居者一人ひとりの姿シートを作っている途中である。1日の流れを、入居者の表情を見て記録している。入居者のささやかな希望にも個別に対応して満足して貰えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や慣れ親しんだ環境等をご本人や家族様から聞き、サービスに反映できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの趣味や嗜好を取り入れ、有する能力を継続できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族様の意向や意見を反映した介護計画作成に努めています。また、3か月に1度または必要に応じてケアカンファレンスを行い現状の課題や問題について検討している。	計画の見直しを図り、カンファレンスを行い、ケアプランを作成している。新人のケアプランナーもいるので、隣のグループホームも交えて4ユニットで計画作成の勉強会をし、入居者のニーズに合った計画作成に努めている。	カンファレンスで話し合われた内容が、計画により反映出来るように職員のレベルアップを図っている最中なので、今後に期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式の生活リズムパターンシートを活用し日々の活動や気づき、異変等を記入しています。職員間で情報共有し介護計画を見直しケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族様の状況の変化により新たな課題が出てきた際、必要に応じてサービスや支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサークルの方々にボランティアにお越しいただき、楽しみを持ちながらご本人の持っている力が活用できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族様の希望を伺い適切な医療が受けられるよう支援しています。かかりつけ医による定期的な訪問診療や、必要に応じて受診介助も行っています。	看護師が2人出勤時を受診日にしている。入居者は個々のかかりつけ医に往診して貰えるが、歩ける内は看護師と一緒に受診して貰っている。医大などの遠い場合は本人の負担が少ないよう、家族と受診に赴いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員が日々の情報交換を密に行い、主治医や医療関係機関と連携し、健康管理、緊急時の対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には定期的に面会し、病院関係者と情報交換を行い連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期対応の方針やできることについて説明し、重度化や見取り介護についての家族様の意向を書面で確認しています。また必要に応じてカンファレンスを行いその都度ご家族の意向を確認しています。	看とりは行っており、入居時に重度化に対しての意志確認書を家族に書いて貰っているが、状態に応じて来てくれた際、再度家族に意思確認するようにしている。看とりが必要な時には職員が不安にならない様に、医師、看護師と話し合い見える所にメモを貼っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成し全職員が閲覧できるようにしています。また、研修の機会も設けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回実施しています。近隣の方にも協力を仰いでいますが共同した訓練は実施できていない。	夜間の火災を想定した避難訓練を、消防署立ち合いのもと入居者も参加している。水害の時の垂直避難を想定し、備蓄は3日分を2階に置き、内容も必要に応じて変化させている。ライフジャケットは人数分用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のコミュニケーションや対応の中で一人ひとりを尊重した声掛けや対応を行い、より良い関係が築けるよう努めています。また、家族様の了解のもと、親しみを込めて呼びなれた名前と呼ばせていただくこともあります。	苗字で呼んでも伝わらない人には、家族の了解を得て名前で呼んでいる。トイレで便の介助時には入居者の近くに行って聞いている。気になる職員の行動にはその時々で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で家事や休息などご本人のしたいことができる時間を多く取り入れています。こちらから一方的な押し付け内ならないよう希望を聞き、自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを心がけ、体調や気分を伺いながらご本人の趣味や嗜好を継続できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方はお化粧や毛染め、男性はひげの手入れなどご本人の望む格好やおしゃれができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中で献立本などを参考に入居者様の嗜好を把握し献立に取り入れています。また状態に応じて形態や食材を変更したりします。ごく簡単な下処理や後片づけ等を出来る方にはしていただいています。	誕生日は外食を頼み、全員で楽しんでいる。職員も一緒に食べており、メニューは3カ月のローテーションに行事食を取り入れ変化させている。おやつは月に1~2回担当職員が考えて、入居者皆で楽しんで作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく様々な食材や旬の食材を使用した献立を作成し、栄養バランスが偏らないよう努めています。水分や食事量を把握できるよう毎回チェックし記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の力に応じた対応や介助で口腔ケアを実施しています。外出後には手洗い、うがいを促し清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンやできる能力をアセスメントし、個々に応じて誘導を行い自立した排泄が行えるよう努めています。	便秘予防に腸内環境に配慮した食品を食べたり、下痢の人は看護師とも相談して食事の水分を控えている。リハビリパンツから布パンツになる入居者もいる。オムツは夜間だけ必要な入居者が数人いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動、食事等を工夫しなるべく自立した排便ができるよう努めています。また看護師と相談し必要に応じて主治医と連携し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を定めることなく入浴支援を実施し、体調やタイミングを見計らって入浴時間や介助者を希望に沿えるよう努めています。	2日に1回のタイミングで午後から入浴している。1階にリフト浴が有り、入らない日には必要に応じて足浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え夜間ゆっくりと眠れるよう日中は活動的に過ごしながらも、入居者様の意思や状態に応じて休息もして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報や服薬状況一覧表にて職員一人ひとりが理解し管理に努めています。また、かかりつけの薬剤師または主治医と情報を共有し服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	脳トレや習字、生け花など思い思いの時間を過ごされています。季節感を味わったり気分転換になるようなレクや行事を考え、楽しみをもって生活して頂けるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻度は多くないが、希望の場所やドライブ、喫茶店に行くなど外出支援に努めています。また個別に買い物に出かけたり、家族様と一緒に外出、外食、自宅への外泊をされる方もいます。	車2台でドライブし、お寺参り、花見、海へ出かけたり、喫茶店でケーキを食べたりと、ユニットごとで車椅子の人も一緒に出かけている。入居者の家族も一緒に参加する時もある。隣のグループホームと一緒に合同で花火、カフェなど実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の了解のもと、少額のお小遣いをご本人が所持管理している方もおられ、困難な方は金庫にて預かっております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って家族様や友人と電話で話せるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の作品や写真を一部に掲示し、季節感を出しながらも生活感に配慮しています。入居者様の状況に合わせてテーブルの配置を変更したり居心地の良い空間になるよう努めています。	季節感を出すよう、お雛様などを飾っており、テーブルの位置も決まっている。午前中の体操の後には、入居者の好きな歌をCDに入れて流している。畳の場所では車いすの人に横になって貰っている。リビングでくつろぐ人が多いが、空気清浄機は無く加湿器は一つしかない。	インフルエンザなどの感染症予防の為に加湿器不足かバスタオルによる加湿が行われていたので、空気清浄機や加湿器などを配置して入居者の健康に繋げる事を今後期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳スペースで横になられたり、お一人でもくつろぐことができるよう数か所に椅子を配置しています。また、入居者様同士の関係性を把握し、席の配置にも考慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内で落ち着いて過ごせるよう使い慣れた家具や愛着のあるものを持参していただいています。また、ご家族やご友人との写真なども飾っています。	入居者に応じて畳の部屋もある。転倒防止に床にクッションマットを敷いたり、テレビや壁には写真を貼ったり、塗り絵を飾ったりして居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で、移動や入浴、排せつ等を入居者様の残存機能が十分発揮できるよう配慮しながら安心、安全に日々を暮らせるよう努めています。		